

れません。実際には、Web標準のタグを付ける作業というのは、表示結果などは気にすることなく、決められたタグの中からふさわしいと思うものを選んで付けるだけの単純作業です。それは本当に難しい作業なのでしょう。

ホームページの元となるHTMLとCSSは、どちらもテキストファイルです。つまり、文字の編集ができて「テキスト形式」で保存ができるソフトであれば、どれでも作成可能です。そして、HTMLであれば、基本的なテンプレートのようなものさえ用意すれば、あとはテキストに対してタグを付けるだけであつと言う間に完成させることができます。頻繁に使われるタグの数は、それほど多くはありません。せいぜい10数個のタグをおぼえておいて、あとは必要に応じて本書の付録にあるようなリファレンスを参照するだけで、誰にでも簡単に作成できます。

1.4 タグを日本語にして考えてみよう

テーブルレイアウトの時にはHTMLのタグで表示方法を指定していましたが、Web標準ではタグで構造を示すという違いがあると説明しました。「構造を示す」と言うと何やら難しそうですが、簡単に言えば「その部分がページの構成要素として何であるのかを示す」ということです。つまり、Web標準ではタグを使って、「ここは見出しです」「ここは段落です」「ここは強調された部分です」というように、単純にその部分が何であるのかを示していけばいいわけです。その際に、そこがどのように表示されるのかを考える必要はありません。表示方法については、CSSを指定する段階で考えればいいのです。

それでは、同じHTMLのタグでも、「表示を指定するタグ」をつけるのと「構造を示すタグ」をつけるのとでは結果的にどう違ってくるのかを見てみましょう。ここでは、タグの意味が直感的に理解できるように、あえてタグを日本語にした状態で説明します。

▼図1.5 表示を指定するタグを使った例

Web標準ではタグで<太字>構造を示す</太字>ことが重要です。

▼図1.6 構造を示すタグを使った例

Web標準ではタグで<強調>構造を示す</強調>ことが重要です。

表示を指定するタグを使った例では、「構造を示す」というテキストを<太字>～</太字>で囲って、その範囲のテキストを「太字で表示」するよう指示しています。一方、構造を示すタグを使ったサンプルでは、テキストを<強調>～</強調>で囲って、その範囲のテキストが「強調して表現すべき部分」であることだけを示しています。この強調部分の具体的な表示方

法は別途CSSで指定するのですが、仮にCSSで強調部分を太字で表示させるように指定した場合、両方のサンプルの表示結果は一般的なブラウザにおいては基本的に同じになります。

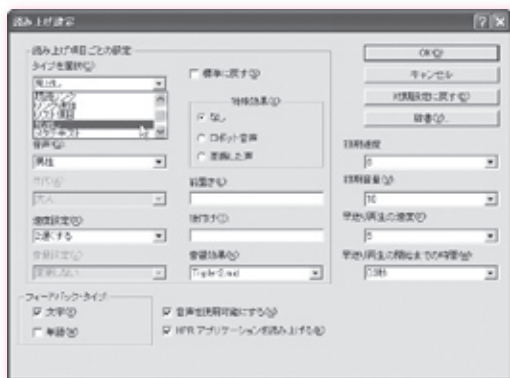
あえて、「一般的なブラウザにおいては基本的に同じ」と書いたのには訳があります。そうでないブラウザにおいては、大きな違いが生じるからです。たとえば、極端な例として音声ブラウザの場合にはどう読み上げられるのかを考えてみましょう。「太字」というのは、音声で読み上げるブラウザにとっては意味のない情報です。ここで、「なぜ太字にしているのか」がわかれば読み上げ方法に反映させることも可能なのですが、「太字」にするという指示だけでは、それが「見出し」なのか「強調部分」なのか、デザイン的な理由でそうしているのか判断できません。

結局、どのように表示するのかという情報は、指示どおりに表示できる環境では意味を持ちますが、それ以外の環境では無視するしかない無意味な情報となってしまうのです。

それに対して<強調>~</強調>はどうでしょうか。音声ブラウザでも、読み上げ方を強調する手段ならいくつか考えられます。たとえば、その部分だけボリュームを少し大きくして読み上げる、通常よりもゆっくりと読み上げる、声や音質を変えるなど、方法はいくらでもあります。つまり、「どう表現するか」を直接指示するのではなく、「その部分が何であるのか」を示すことによって、環境によって可能な方法でそれにふさわしい表現をすることが可能になるのです。

▼図1.7 ホームページ・リーダー設定画面

日本での代表的な音声ブラウザであるホームページ・リーダーの設定画面。さまざまな部分をどのように読み上げられるかを設定できるようになっている。



ここでは、わかりやすく音声ブラウザの例を挙げましたが、太字を表示できないテキストブラウザやモバイル環境があったとしても、同じように異なる表現が可能であることは容易に想像できると思います。たとえば、太字にできなくても、色を変えたり、前後に記号をつけるな

どすれば強調を表すことは可能です。このように、「表示を指定するタグ」はその通りに表示できない環境では意味のない情報ですが、「構造を示すタグ」はどのような環境においても適切な表現方法で情報を伝えられるようにするための手掛かりとなる、大変重要なものなのです。

▼図1.8 テキストブラウザであるLynxでの表示例

Lynxでは、強調部分は赤い文字で表示されます。



また、「構造を示すタグ」を適切に使い、それに対して間接的に表示方法を指定するという構造になっていると、あとから表示方法を変更することも簡単にできるようになります。これは、制作者にとっては大変重要なポイントです。たとえば、上記の例のタグを使ったページがそれぞれ100ページずつあったとしましょう。そして、該当部分の文字を、さらに赤くすることになったとします。そうなると、`<太字>～</太字>`を使って作ったサイトでは、100ページを修正して、100ページの表示チェックが必要になります。それに対し、`<強調>～</強調>`を使ってCSSで表示指定をしている場合は、CSSを1箇所修正し、せいぜい数ページの表示確認をすれば済みます。そのような修正が何度も入ることを考えると、「表示を指定するタグ」がいかにか非効率で環境に依存したものであったのかが理解できるのではないでしょうか。

1.5 構造を示すタグを付けてみよう

次に、「構造を示すタグ」というものは、ホームページのコンテンツに対してどのように付けていくものなのかを確認するために、サンプルのテキスト原稿に対して実際に構造を示すタグを付けてみましょう。ここでも、タグの意味が理解しやすいように、タグは日本語にしたものを使用します。最初のサンプルは、次のような簡単なものです。

▼図1.9 “構造を示す日本語のタグ”を付ける前の状態

日本の観光地

日本は、北の亜寒帯から南の熱帯までを含む南北にとっても長い国です。ここでは、四季の変化に富んだ魅力的な日本の観光地を地域別に紹介します。

まずは、このサンプルがホームページのコンテンツである状態を想像してみてください。内容は、大きく2つの部分に分かれています。では、この2つはページの構成要素として考えると、何であると言えるでしょうか。ここでは難しくは考えずに、最初の部分が「見出し」で、その後にあるのは1つの「段落」であると考えてことにしましょう。それぞれを<見出し>～</見出し>と<段落>～</段落>で囲うと、構造を示すタグを付ける作業は完了です。ちなみに、タグは「始めのタグ」と「終わりのタグ」を区別できるようにするために、「終わりのタグ」には「</○○>」のように「/」をつける決まりになっています。

▼図 1.10 “構造を示す日本語のタグ”を付けた状態

```
<見出し>
日本の観光地
</見出し>

<段落>
日本は、北の亜寒帯から南の熱帯までを含む南北にとっても長い国です。ここでは、四季の変化に富んだ魅力的な日本の観光地を地域別に紹介します。
</段落>
```

次は、もう少し内容を増やしたサンプルにタグをつけてみましょう。2つめのサンプルは、以下のとおりです。

▼図 1.11 2つめのサンプルのテキスト原稿

```
日本の観光地

日本は、北の亜寒帯から南の熱帯までを含む南北にとっても長い国です。ここでは、四季の変化に富んだ魅力的な日本の観光地を地域別に紹介します。

北海道

北海道と言えば、どこまでも続くまっすぐな道路、そして広大な大地をイメージする方が多いのではないのでしょうか。そのほかには、サケ・ヒグマ・キタキツネなどを連想する人もいることでしょう。

沖縄

沖縄の魅力は、美しい海だけではありません。島ごとに育まれてきた特有の文化や、そこでしか味わえないゆったりとした時間の流れも観光客を惹きつける大きな魅力となっています。
```